

# 個性のススメ 2024



慶應義塾大学  
法学部

Keio University  
Faculty of Law

個性のススメ 2024

慶應義塾大学 法学部 〒108-8345 東京都港区三田2-15-45 <https://www.law.keio.ac.jp/> 発行 2024年3月31日



法学を学ぶ。  
慶應義塾で学ぶ。

|                 |                 |    |
|-----------------|-----------------|----|
| 法学部を支える3つの柱     |                 | 03 |
| 学部長よりメッセージ      | 堤林 剣 先生         | 04 |
| 日吉主任よりメッセージ     | 大久保 教宏 先生       | 05 |
| 学びのステップ         |                 | 06 |
| <b>法律学科</b>     |                 |    |
| 教員からのメッセージ      | 北澤 安紀 先生        | 08 |
| 学生からのメッセージ      |                 | 09 |
| ゼミ・研究会          | 君嶋 祐子 研究会       | 10 |
|                 | 武井 良修 研究会       | 11 |
|                 | 松元 暢子 研究会       | 11 |
| <b>政治学科</b>     |                 |    |
| 教員からのメッセージ      | 大串 敦 先生         | 12 |
| 学生からのメッセージ      |                 | 13 |
| ゼミ・研究会          | 奥 健太郎 研究会       | 14 |
|                 | 井上 正也 研究会       | 15 |
|                 | 長野 晃 研究会        | 15 |
| <b>共通科目</b>     |                 |    |
| 教員からのメッセージ      | 許 光俊 先生         | 16 |
|                 | 土居 志織 先生        | 17 |
| 人文科学研究会／自然科学研究会 | 人文科学研究会 林 秀光 先生 | 18 |
| <b>法学部の1年生</b>  |                 |    |
| 1年生からの法律学       | 駒村 圭吾 先生        | 20 |
| 1年生からの政治学       | 小嶋 華津子 先生       | 21 |
| 新入生に聞きました!      |                 | 22 |
| 現役生からのメッセージ     | [法律学科]          | 24 |
|                 | [政治学科]          | 25 |
| 国際交流            |                 | 26 |
| 留学経験者からのメッセージ   |                 | 28 |
|                 | さん              | 29 |
| 卒業後の進路          |                 | 30 |
| 卒業生からのメッセージ     | 三浦 雅哉 さん        | 32 |
|                 | 近藤 夏子 さん        | 33 |
|                 | 山崎 琢磨 さん        | 34 |
|                 | 榊 汐里 さん         | 35 |
| 大学院への進学         |                 | 36 |
| 法学部の入試制度        |                 | 38 |
| 奨学金制度           |                 | 39 |
| 教員一覧            |                 | 40 |

法学を学ぶということは、社会そのものを学ぶことにつながります。  
社会全体を俯瞰して捉えながらも、本質を見極める。  
そのような力が、現代では一段と求められています。

そして法学を慶應義塾で学ぶということ。  
熱心に指導してくれる教員、卒業生、尊敬しあえる仲間たち。  
素晴らしい出会いが、あなたの本来の力を引き出してくれるでしょう。

自分という個の強みを見つけ、自己の価値を高めていく。  
社会の先導者になるために。

## 法学部を支える3つの柱

"Specialist" and "Generalist"



慶應義塾大学法学部は、法律を専門に学ぶ法律学科と、政治を専門に学ぶ政治学科の  
2つの学科にわかれています。

法律と政治はそれぞれ連携して社会を形作っています。

法律学科では法律を中心に政治も学び、政治学科では政治を中心に法律も学びます。  
また、社会のルールを作るには、法律・政治のことだけがわかればよいわけではありません。

歴史などを学ぶ人文科学、科学技術などを理解する自然科学、

そして、世界で活躍するには外国語の習得も必要です。

これらの科目を有機的に結び付けて、法学部では、  
国際的な舞台上で活躍できる「スペシャリスト」兼「ジェネラリスト」を育成します。

## 学部長よりメッセージ

ようこそ「個性のススメ」へ。学部長の堤林です。

慶應義塾大学法学部には、多様な個性からなる小宇宙がたくさん、モザイクのように結集しています。ご覧のとおりここでは、大学でもに学ぶ教員と学生はもちろん、社会で大活躍されている卒業生の方々からも法学部の魅力を語る声を集め、そこから開ける世界へとみなさんをいざなっています。

これは単に「法学部のススメ」ではありません。わたしたちが目指しているのはまさしく「個性のススメ」であり、それぞれが小宇宙として思いっきり輝けるようなプラットフォームを整えることです。そして大学の内外を問わず、みなさんがひとたび法学部に身を置いた仲間として互いに繋がり、社会や世界——つまり大きな宇宙をよくしよう、自分にとってもみんなにとっても大切なものを守っていこう、と日々尽力する起点となることです。ここに集められた小宇宙を覗けば、それぞれが実学の精神や学問を通じて、より大きな宇宙へと働きかけている姿が垣間見えると思います。

今日の世界には深刻な問題が山積しています。パンデミック、環境破壊、貧困、社会的分断、エネルギー問題、食糧問題、地域紛争——こうしたグローバルにしてローカルな危機を回避し、みんなが充実した生を営み、フェアと思えるような世界を実現するにはどうすればよいのか。もちろん、問題解決には世界中のひとびとの協力が必要不可欠です。けれども、ローカルな次元から繋がって、その輪を広げていくというアプローチが不要となることは決してありません。

慶應義塾大学はそのような活動を育む一つの拠点です。大宇宙が小宇宙を包摂するように、グローバルにはローカルが含まれ、世界や社会は個人の活動によって成り立っています。そして法学部では、社会と個人との結びつき、構造そのものを見つめる学問を学ぶことができるのです。慶應義塾の理念として福澤諭吉の掲げた「気品の泉源、智徳の模範」は、まさに社会のなかに生きて働く個人の理想像を謳ったものともいえます。

みなさん、学問を通じて個性を磨き、ひとびとや社会と繋がる喜びを知るために、法学部で勉強してみませんか。

個性を磨き、  
ひとびとや社会と繋がる  
喜びを知るために



法学部長 法学部教授  
堤林 剣 先生  
Ken TSUTSUMIBAYASHI

## 日吉主任よりメッセージ

みなさん、こんにちは。日吉キャンパスにおける法学部教育のまとめ役をいたしております日吉主任の大久保教宏です。

慶應義塾大学法学部の自慢は何と言っても教授陣です。いずれ劣らぬ学問のいわば達人であり、学問を通じて個性を磨いてきた先達です。学部卒業後、志を内に秘めて大学院に進み、修士論文を書き、博士論文を書き、海外に留学し、外国語を身に着け、膨大な資料を収集して読み解き、フィールドワークを行い、実験を繰り返し、研究成果を学会で発表し、本を出版し、後進を指導してきた人たち、学問に献身してきた人たちです。

分野的にも、法律学・政治学の諸領域はもちろん、歴史、文学、言語学といった人文科学や、物理、生物、化学、心理学といった自然科学など、多種多様な専門の達人がそろっているのが、法学部の大きな特徴です。ロシア語、アラビア語のように、他の大学や学部では学ぶ機会が少ない言語の達人もおります。法はすべてにつながっている——法律や政治はさまざまな社会現象、自然現象と密接に関連しており、法律学・政治学の高峰を目指すなら、それらの現象を扱う他の学問領域も学んで十分にすそ野を広げておく必要があります。法学部に多彩な分野の達人がいるのはそのためです。達人のもとで学問の面白さ、奥深さを教わり、人類が積み上げてきた学問的成果を吸収し、卒業研究等を通して自らも能動的に学問的成果の積み上げに貢献する4年間は、みなさんのその後の人生にとって大きな意味を持つ至福の4年間となるはずです。法学部は、みなさんがそのような4年間を過ごせるよう、万全の体制を整えています。この冊子を通して、至福の4年間でぜひ想像してみてください。

スペースの都合もあり、この冊子では、達人ぞろいの法学部教員全員の姿を紹介することはできません。他にどのような達人がいるのかは、入学後のお楽しみ。現役法学部生の至福の表情にもぜひ注目してください。まずは日吉キャンパスにて、みなさんにお会いできるのを心待ちにしております。



法学部日吉主任 法学部教授  
大久保 教宏 先生  
Norihiro OKUBO

達人に学ぶ  
至福の4年間

# 学びのステップ

## 1、2年 日吉キャンパス

1、2年次から教養科目や外国語だけではなく、専門科目が学べるようになっていきます。履修者の習熟度や経済学・情報処理などの隣接学問にも配慮した科目編成を行っています。また、「演習」も開講しています。少人数での学習を通して、研究やプレゼンテーションの仕方を早くから習得することができます。

## 3、4年 三田キャンパス

あなたの好奇心を刺激してやまない専門的な授業を用意しています。ここで学んだことは、社会人になっても大きな力となるはずです。専門教育の「核」となるのが「研究会」（ゼミナール）。ゼミは自分の興味のある分野を極めるため志を共有する教員と学生が、少人数で、共通文献の講読や議論を通じ、理解を深めていくものです。多くの研究会では合宿やOB / OG 会も盛んで、慶應義塾大学の特色であるヨコとタテの人のつながりも、たいていは、この研究会活動を通じて培われるものです。

## 法律学科

1、2年生で法律学の基礎となる理論や法律をしっかり修得します。  
3、4年生では、より広く、より奥深い法律学の世界が待っています。  
それぞれの興味関心に応じて自分の専門とする法分野を選び、究めています。  
指定された専門科目を1年生から履修することによって早期卒業をして  
法科大学院進学を実現できる法曹コースが設置されています。



## 政治学科

1、2年生で政治学の基本を学びます。  
3、4年生では、より専門的な内容を学ぶとともに、研究会での文献研究や、仲間や先生との議論を通じて、政治的思考力を身につけます。



## 共通科目

法学部ならではのユニークなカリキュラムです。教養科目を網羅的に履修するのではなく、体系的に積み上げていくようになっています。ゼミナール形式の「人文科学研究会」「自然科学研究会」を通じて、さらに発展させ、理解を深めることが可能です。そして、4年間学習してきた領域について一定の成果をおさめれば、副専攻として認定されます。

|            |   |
|------------|---|
| 外国語        | 学べる言語<br>英語 / ドイツ語 / フランス語 / 中国語 / 朝鮮語 / スペイン語 / ロシア語 / アラビア語<br>目的や意欲に合わせ、言語、コース・レベルを選択することができます。<br>〈レギュラーコース〉 週2回の基本コースです。初習言語は、基礎から丁寧に学べます。<br>〈インテンシブコース〉 集中的に学ぶためのコースです。授業は週4回、時間をかけて丁寧に学びます。少人数クラスで、ネイティブの講師による授業も行われています。 |
| 社会科学       | 法律学科 法学 / 政治学 / 社会学 / 地理学 / 経済学 / 近代思想史 など<br>政治学科 法学 / 社会学 / 憲法 / 民法 / 経済原論 / 経済政策 / 財政論 など  |
| 人文科学       | 言語学 / 地域文化論 / 文学 / 歴史 / 科学史 / 論理学 / 倫理学 / 宗教学 / 哲学 / 音楽 / 漢文 / 美術 / 人文科学特論 / 人文科学研究会 など   |
| 自然科学       | 物理学 / 化学 / 生物学 / 基礎数学 / 心理学 / 基礎統計学 / 自然科学特論 / 自然科学研究会 など   |
| 数学・統計・情報処理 | 数学 / 統計学 / 情報処理 / 情報処理特論 / 統計情報処理 など  |

# Messages from Our Faculty



## グローバル化の進展と国際私法

法律学科教授 北澤 安紀 先生  
Aki KITAZAWA

グローバル化の進展により、私たちは国外の人々と直接結びつき、やり取りする時代になりました。それに伴い、個人や企業をめぐる国境を越えた法的な紛争が日々生じています。このような個人や企業に関する国際的な法律問題を解決するのが国際私法という法分野です。

日本の企業同士が日本で契約を結ぶ場合や日本人同士が日本で結婚する場合のように日本の中だけで展開している問題には日本の民法が適用されますが、国際私法の対象となるのは国際的な法律問題であるため、特別な処理が必要となります。日本の企業と外国の企業が締結した契約をめぐる紛争については、どこの国の裁判所に訴えを提起したらよいのか、また、適用されるのは、日本の民法なのか、外国の民法なのか、それらを定める基準について定めているのが国際私法です。

国際私法に精通し、国際的な事件の紛争処理を担うのが涉外弁護士です。実際に生じている紛争として、例えば、日本のアニメや漫画の著作権が外国で侵害された場合や、海外企業を介して暗号資産取引が行われトラブルが生じた場合に、権利者をどのように保護するかが問題となります。最近では、国際結婚が破綻した場合の、夫婦間での子の奪い

合いに関するハーグ条約関連の紛争も増えてきました。このような紛争の処理だけではなく、国際結婚をしたいカップルは婚姻届をどこの国に提出したらよいのか、結婚するときの条件はどちらの国の民法にしたがえばよいのかという問題もあります。また、日本の企業が外国の企業と契約を結ぶ場合には、将来の紛争に備えて、どこの国の裁判所に訴訟を提起するのか、どこの国の民法を適用して事件を処理するのかをあらかじめ契約書の中で合意しておくことがあります。

国際私法は、個人や企業が、国境や、各国の民法の違いを意識せずにグローバルに活動できることを理想としています。この理想を実現するために、国際私法はある事件についてどこの国の裁判所で訴えが提起されようとも、同様の判決が下され、同じ結論になる、すなわち、各国での紛争解決の一致を目指しています。そのためには、時代の変化に対応しつつ、諸外国の国際私法立法の動向にたえず目を向け、日本の国際私法のあるべき姿について常に再考し検討する必要があります。

# Messages from Our Current Students



## 国際的なリーガルマインドを培う学び

法律学科3年

近年SNS上では、匿名アカウントによる誹謗中傷や著作権侵害が社会問題になっています。しかし、日本を含むほとんどの国の制度では、被告の住所と名前がわからなければ民事訴訟を起こすことができず、被害者救済が極めて困難です。そのため、「発信者情報開示請求制度」（主に、SNS事業者に対して、発信者のIPアドレスの開示を求めるときの制度）を整備する国が増えてきました。しかし、ここで新たな問題が生じます。日本人が外国のSNS事業者に対して開示を求めるには、どこの国の法律にしたがう必要があるのでしょうか。国際私法とはこのような問題を扱う学問です。

北澤ゼミでは、3年次に全員で協力して1つの論文を書き

上げることが伝統になっていますが、私たちの代はこの問題をテーマに選びました。研究の過程で、諸外国の制度について知る必要があったため、世界15か国の法律文書をかき集め、徹底的に分析しました。国際的な視座を養う上で非常に価値のある経験になったと思います。

また、本ゼミでは毎週、国際私法に関する判例を題材としたディベートを行っています。判例や学説の対立構図を踏まえた上で、自身の立場の一貫性を維持しつつ、その優位性を主張することは、論理的な思考力を高める良い訓練になっています。こうした学びを通じて培われてゆくリーガルマインドが、様々な価値観が交錯する現代社会において、未だ見ぬ問題に立ち向かう際の羅針盤になると信じています。

### 学生の論文

全国的にも珍しい、学部学生の研究成果を活性化する学術雑誌『法律学研究』。年2回刊行され、毎号、ゼミでの共同研究や個人研究が多数寄せられます。

#### 法律学研究 第70号 学生論文集

- ◎外在的動機付けとしての法に関する一考察
- ◎児童の売買等に関する児童の権利条約選択議定書から見る子どもの保護と日本が抱える法的課題について
- ◎消費税法における役務の提供に係る内外判定についての一考察
- ◎日本における定年後の継続雇用制度の法的課題
- ◎非国家主体への自衛権行使に関する一考察
- ◎日本の同性婚合法化に向けた今後の歩みに関する考察
- ◎DNA型データベースに関する韓国法の基本構造
- ◎ドイツ法における少数民族保護条項と国家目標規定
- ◎心神喪失遺言者生存中の遺言無効確認請求における訴えの利益
- ◎介護者支援の現状と今後の課題



# Our Seminars



## [法律学科] ゼミ・研究会

法律学科の多くの先生方は、三田キャンパスで研究会(ゼミ)を開講しています。どんなことを学んでいるのか、いくつかのゼミの様子をご紹介します。



### 君嶋 祐子 研究会 〈知的財産法〉

Yuko KIMIJIMA Seminar

知的財産は、知的創作や商標などの無体物のうち、人の知的活動、事業活動の成果として財産的価値のあるものの総称です。知的財産法は、知的財産の保護と利活用について規律する法分野であり、特許法、著作権法、商標法、不正競争防止法など、多くの実定法を含みます。

君嶋ゼミでは、3年生は特許法、著作権法などの判例研究を中心に、ソクラテスメソッド、すなわち質疑応答や討論を通じて、知的財産法の基礎の修得を行います。4年生は、知的財産法分野からテーマを選び、大学院生との合同ゼミで中間発表を行ったうえで、約1年かけて卒業論文を完成します。判例など大量の資料から必要な情報を調べてまとめる力、意見の異なる他者と話し合っって新たな視点や問題解決策を見出す力を養います。

卒業生は、企業や官公庁のさまざまな業種で活躍し、また、弁護士や研究者など専門職に就く者、出産育児などを経てキャリアに復帰する者もいます。卒業後直ちに大学院に進学する者や、社会人の経験を経てから大学院進学や留学をし、キャリアアップや変更をする者もいます。

研究対象のためか、小説、絵画、音楽、漫画、アニメ、映画、演劇、ダンス、プログラミング、ゲーム、メタバース、国際関係、そしてもちろん法律学など、さまざまな興味や特技を持った学生が集まる君嶋ゼミは、在学中はもとより、卒業後もOBOG会などで交流でき、教員も含めて互いに教え学び合う半学半教のコミュニティです。



### 松元 暢子 研究会 〈商法〉

Nobuko MATSUMOTO Seminar

私たちのゼミ(研究会)では、主に会社法や金融商品取引法という法律を勉強しています。実際のビジネスとも関連の深い法律です。例えば、会社法は、会社の組織の仕組み(ガバナンス)、会社が資金を調達しなくなった場合の手法(ファイナンス)、会社が合併したり、ある部門をその会社から切り離したりする場合の手法(組織再編)について定めています。

ゼミでは、会社法英語文献講読と、実在の会社を検討対象とした企業事例研究を行います。両方に共通するのは、「使う」という側面です。高校生までの勉強では、英語は主に「学ぶ」対象だったかもしれませんが、ここでは、海外の会社法の仕組みを知り、それを日本の制度と比較分析するために英語を「使って」います。また、企業事例研究では、会社法や金融商品取引法といった法律が実際にビジネスの世界でどのように「使われて」いるのかを勉強しています。法律については、「使って」いく、あるいは「使う」ことを想定した分析を行う中で、制度の問題点や不備に気づき、法律の改善提案に結び付くということもあるかもしれません。

慶應義塾大学法学部法律学科のゼミは、3年生・4年生の2年間継続して履修する点に大きな特徴があります。2年間の学びを通じて、更には卒業後のOBOGとしてのつながりを通じて、ご自分の大切な居場所をひとつ増やしてほしいと思います。



### 武井 良修 研究会 〈国際法〉

Yoshinobu TAKEI Seminar

ロシアによるウクライナ侵攻やイスラエルとパレスチナの間の紛争をはじめとして、最近の報道においては国際法への言及がなされることが以前より格段に多くなりました。また、国際法が規律する事項は、現在では環境、経済、航空、宇宙、そしてサイバー空間にまで広がっており、知らず知らずのうちに国際法のルールが実は皆さんの生活に影響を及ぼしている場合も多いです。国や国際機構だけでなく個人、NGO、企業なども重要なアクターとして国際法の形成・実施に関与するようになっており、国際法は以前にもまして我々の生活に密接に関わるようになってきています。

本研究会では、3年次には文献講読、判例研究、模擬裁判などを通じて国際法の理解を深め、4年次には卒業論文の執筆に向けた研究を進めています。また、春と夏の合宿を通じて、ゼミ生同士で集中的に国際法について議論する場を設けています。これに加え、国際法を理解するには、単に文書に書かれた情報を目にするだけでは十分ではないことから、ゼミでは、国際法の実務に携わっているゲスト・スピーカーによる講演、大使館訪問や国際法関連施設の見学などを通して、生きた国際法に触れることを目指しています。これらの経験を通じてゼミ生には、誤情報・偽情報に惑わされず自分の頭で判断して行動する人間として成長し、国際社会に羽ばたいてほしいと願っています。



## Messages from Our Faculty



### スラヴ・ユーラシア地域から政治学の大問題を考える

政治学科教授 大串 敦 先生  
Atsushi OHGUSHI

2022年2月に始まったロシアのウクライナ侵攻は世界を驚かせました。私自身もロシアとウクライナの関係が様々な問題を抱えていたことは承知していましたが、戦争になるとは考えておらず、開戦以来反省することが多かったです。自分が主なフィールドにしてきた二つの国が正面から戦争をはじめ、私の知っている現地の人も少なからず巻き込まれることになりました。様々な感情に揺り動かされる毎日ですが、研究者としては、なぜ戦争にまで至ったのか、冷静に考察しなければならないと考えています。

私の専門としているスラヴ・ユーラシア地域研究は、1991年にソ連邦が唐突に解体したことによって誕生した諸国を主な対象にしています。1917年にはロシア革命によって世界を震撼させ、共産党体制という独特の政治体制を生み出し、冷戦ではアメリカと並ぶ一方の極として世界政治に君臨し、1991年には巨大国家が解体することで再度世界を震撼させ、今再びロシア・ウクライナ戦争により世界の関心が集まるようになりました。しかし、そうした大事件が多発している割には、事件のたびに一過性の関心事になるだけで、恒常的な関心の対象にはあまりなっていないように思います。私を含め、この地域の研究者の力不足ですが、それでもこの

地域の政治は大変に興味深いと確信を持って言えます。国際政治学の古典的な問題である戦争と平和を考えるのに、今まさに戦争をしているこの地域を深く理解することは極めて重要でしょう。革命という政治現象を考えるのにロシア革命が古典的な事例であり続けているのは言うまでもありません。今日、民主主義とは何かを考えるにあたって、ソ連のことを含めて考える人はほとんどいないでしょうが、ソ連の政治体制は西側以上に民主的であると公式には主張されてきました。1991年に誕生した新国家群は、当初国家としての体裁をなしていない国がほとんどでした。その後の展開を観察して、国家建設の過程を同時代的に観察することができます。また、この地域の多民族性は、多民族の共存という今日の最重要問題の一つを考えるうえでも貴重な知見を提供してくれます。

私自身は、ソ連体制の崩壊過程という歴史的な研究テーマと、ロシアやウクライナ現代の政治という二足の草鞋を履きながら研究してきました。歴史的なテーマをやるときも、現代政治をやるときも、調査をするために現地に降り立ったときはいつも知的な興奮を覚えます。学生の皆さんともこの地域の面白さを共有して、政治学上の大きな問題と一緒に考えていきたいと思っています。

## Messages from Our Current Students



### 学問の息吹に導かれて。現代を生きる意味を問う

政治学科 4年

私がロシアに関心を持ったのは中学生の時です。慶應義塾大学元教授の横手慎二先生が書かれた『スターリン』という本に心を動かされ、どうしても慶應に入ってロシアについて学びたいと思うようになりました。

所属している大串研究会では、カザフスタン問題について研究しています。1920年代、カザフスタンはソ連に併合され植民地化されましたが、実はカザフスタンにおいてソ連は、識字率を上げるための教育や、公共機関の仕組みづくりなども行っていました。ある意味で、国家としてのアイデンティティを育てるための政策も行われていたと考えられます。善悪の問題だけではなく、このような事実もあつたことを学ぶと、歴史というのはとても興味深いと思います。

私は人の思想にも関心があります。スターリンをはじめ、その人物を作りあげている思想が時代にどのような影響を与え、そして私たちが生きているこの時代にどう繋がってきたのか。何を学ぶにしても、それが今の自分たちの生き方と繋がりをもつようになってはじめて、生きた学問と呼べるのだと思っています。

慶應義塾大学の魅力のひとつは、教授も生徒も「共に学ぶ」という雰囲気が自然にあることです。「半学半教」の精神ですね。また、図書館（メディアセンター）もとても充実していて、深い知見をもつ先生方にアドバイスを受けながら、多くの蔵書にアクセスすることができます。

学びを追求することのできるこの大学は、最高の環境だと、日々実感しています。

#### 学生の論文

全国的にも珍しい、学部学生の研究成果を活性化する学術雑誌『政治学研究』。年2回刊行され、毎号、ゼミでの共同研究や個人研究が多数寄せられます。

#### 政治学研究 第69号 学生論文集

- ◎一党独裁体制ラオスとベトナムにおける議会と高速鉄道計画の進展
- ◎ジェンダー・クォータ制度の意義と再検討
- ◎自民党政権における閣僚・党役員人事と首相の人事権
- ◎外国につながる子どもの高等教育進学をめぐる課題と支援
- ◎パール構想後の西ドイツ外交とドイツ統一
- ◎アメリカの州知事によるCOVID-19パンデミック対策を左右する要因
- ◎非政党内閣期の政友会内の実相
- ◎戦争終結にみる国連決議の重要性
- ◎第4次防衛力整備計画の策定主体
- ◎反暴力としての「芸術」が持つ可能性
- ◎拡張し続けるポケモン・ワールドと終わらなき冒険





## 【政治学科】 ゼミ・研究会

政治学科の多くの先生方は、三田キャンパスで研究会(ゼミ)を開講しています。どんなことを学んでいるのか、いくつかのゼミの様子をご紹介します。



### 奥 健太郎 研究会 〈近現代の日本政治史〉

Kentaro OKU Seminar

私のゼミは2023年に新設されたゼミです。研究対象は近現代の日本政治史です。本ゼミの特色は三田祭発表に向け、日本政治に関係した当事者の方からインタビューを行い、その記録を冊子としてまとめることにあります。

「インタビュー」と聞いて、「なぜ学生が？」と思う人もいるかもしれません。しかし、教育の手段として、インタビューはとても有意義なものだと考えています。まず、当事者の語りには「臨場感」が宿り、聞き取り側に忘れられない強い印象を残します。またインタビューにあたって、学生はその時代を熱心に予習することになりますし、聞き取った話に強い印象を受け、その後の学びが広がっていくとも考えています。

しかし、インタビューの意味は学生の勉強だけにとどまりません。近い過去の日本政治関係者はいまは健在であっても、時が経てば経つほどインタビューの機会は失われていきます。学生という専門家ではない者によるインタビューであっても、真剣に学ぶ意思さえあれば、重要な証言を聞き取ることができ、それを後世に伝えていくことができるでしょう。

写真は、奥ゼミとして初めてのインタビュー記録『証言・日本政治史 第1巻一民主党』の編集会議の最終場面です。この証言録でも、民主党関係者の貴重な談話を多数収録できました。政治を本や授業で学ぶことはもちろん大事です。それに加えて、政治の「生」の声を聞いてみたい人は、ぜひ一緒に日本政治史を学んでいきましょう。



【政治学科】ゼミ・研究会

## Our Seminars



### 井上 正也 研究会 〈日本外交史〉

Masaya INOUE Seminar

外交の巧拙は一国の運命をも左右します。一見弱腰に見えて実はしたたかに国益を増大する国がある一方で、強気で大胆な外交を展開した国が、孤立の果てに滅亡した例もあります。1930年代から40年代前半にかけての日本は、自国の国力や資源に見合った外交戦略を立てられず、その結果、多くの犠牲者を出して戦争に敗れました。これに対して、第二次世界大戦後の日本は、日米安保体制と憲法九条を両立させながら、平和と繁栄の道を歩み、ついには西側第2位の経済大国へと復活しました。しかし、今、その平和で豊かな日本の前提であった国際環境は大きく変化しています。中国の台頭にどう向き合うかは、日本のみならず世界の大きな課題です。また北朝鮮の核・ミサイル開発、歴史問題や領土問題など、日本と周辺諸国との間には様々な外交争点が存在します。これらの課題に向き合う時に重要なのは、現状分析だけではなく、歴史に学ぶことです。

井上研究会が大切にしているのは、現代と過去の対話です。外交と軍事の関係はいかにあるべきなのか、世界各国で見られる歴史認識の問題にいかに向き合うべきなのか、経済と安全保障はいかに交わり、すみ分けるべきなのか。歴史は先人たちの成功と失敗の記録と記憶に満ちています。活きた歴史を通じて現代的課題を考え、今まさに直面する課題の答えを歴史の中に見出す。井上研究会では、こうした知的営為を積み重ねていきたいと思えます。



### 長野 晃 研究会 〈政治哲学／政治思想〉

Akira NAGANO Seminar

私たちはしばしば、自由や平等、権力や支配といった日常的な言葉を用いて政治を語りますが、このような基本概念ほど、その意味について改めて問われると答えに窮するものではありません。そればかりか、なぜ人間は政治を営んでいるのだろう、いや本当に営んでいると言えるのだろうか、などと考え始めると、謎は深まるばかりです。当研究会で学んでいる政治哲学では、このような原理的な問いを徹底的に掘り下げて考えます。誰もが自明だと思っていることがよく分からなくなってしまうという困惑から逃げることなく、粘り強く思索を重ねることは、楽な作業ではありません。しかしその際には、二千年以上にわたって積み上げられてきた政治哲学の伝統が手掛かりとなります。そのような伝統は、それを鵜呑みにせず、それと批判的に格闘する場合にのみ、あるべき社会を構想するための導きの糸となるでしょう。

研究会では、難解な哲学書・思想書を少しでも理解できるようになるための地道な訓練に徹します。一人では放り出してしまいそうな本をめぐって自分なりに問題を提起し、皆でいろいろと対話を重ねながら、哲学することを共に学びます。それと並行して、自由なテーマで個人研究を進め、卒業論文を執筆します。答えを発見して満足せず、問うことそれ自体を深め続けることは、回り道を選ぶことかもしれませんが、回り道をしなければ見られない光景がきっとあるはずです。



## Messages from Our Faculty



### よりよい「正しさ」を求めて

法学部 教授 許 光俊 先生  
Mitsutoshi KYO

法学部に入学したら、法律や政治に関する専門科目を学ぶのは当然のことです。しかし、それ以外にもたくさんの授業があります。文学、哲学、芸術、物理学、天文学・・・どうしてそんなに多くのことを学ばなければならないのか、若い人々にはピンと来ないかもしれません。しかし、「やっぱりいろんなことを知っていかなくてはね」と昔々から人生のベテランたちが思ってきたので、そうなっているのです。それは貯金や保険と同じで、いつ必要になるかわからないけれど、ある日、「ああ、勉強しておいてよかった」と痛感するものなのです。あるいはたとえ痛感せずとも、知らないうちにあなたの知性や思考の肥やしになっているのです。

みなさんはこれまで、論理的に考えたり表現したりすることが大事だと習ってきたはずですが、大学ではその先に進まなければなりません。ひとつの問題をめぐって、こういう論理、ああいう論理、いろいろな論理を立てることができるでしょう。そのどれがベター、あるいはベストなのか。判断するためには、さまざまな視点から考える能力や想像力が必要なのです。できるだけ多くの視点を獲得する、それが大学で種々のジャンルを学ぶことの大事な意味であり、「教養」ということです。

ひとつの視点で主張を続ければ、一種の狂信者になってしまう危険もあります。「これはこういうものだ」と石頭になって決めつけてはなりません。学問の世界では、「真実」は常にアップデートされています。どんなに偉い学者の考えも、次の時代にはひっくり返されてしまうことが頻繁に起きるのです。神様、王様という価値判断の絶対的基準が否定された現代を生きる私たちは、「この〈正しさ〉も、いつか否定されるかもしれない相対的なものなのだ」と意識し続けるほかないのです。

私の授業ではさまざまな文学作品を読みますが、有名な作品について思いもよらない解釈が飛び出す可能性が常に存在します。たとえば、みなさんも読んだかもしれない『吾輩は猫である』や『ころも』、あれは実は…。カフカの『変身』は、わけがわからない不条理な作品とされていますが、いやいや本当はものすごくリアルで…。カミュの『異邦人』はずばらしい作品だけど、著者も意識していない差別が表れてしまっていて…。ヘッセの『車輪の下』の主人公があんなになってしまった訳は…。私が理解していることをお話します。おもしろいはずですが、けれども、もしかしたら議論の最中にもっと新しい解釈、もっと新しい〈正しさ〉を思いつくのは、あなたかもしれません。

## Messages from Our Faculty



### 身近な「なぜ？」を科学する

法学部 専任講師 土居 志織 先生  
Shiori DOI

皆さんは虹を追いかけたことがありますか？私は愛媛県のすごく田舎の出身ですが、実際に山の入り口まで虹を追いかけてみたことがあります。当然追いつけませんでした…。そんな当たり前でしょう、と普通は思いますよね。でも「なぜ？」虹を追いつくことはできないのでしょうか？なぜ虹は雨上がりにしか見られないのでしょうか？なぜ虹は7色なのでしょう？正確に説明できる方は少ないのではないのでしょうか。この地球はたくさんの「なぜ？」に溢れています。虹を7色と定義したのはニュートンと言われていますが、ニュートンはプリズムと呼ばれる三角柱のガラスを用いて太陽光を分解すると、7色の虹の光に分かれることを発見しました。太陽光は一見、無色透明ですが、実際には目に見えない紫外線や赤外線等も含めて様々な波長の光が含まれています。虹は特別な条件が揃わないと見ることはできませんが、実は、私たちは常に虹の光の中に存在しているのです。

日常生活の中でふと「なぜ？」と思うことはたくさんあるのに、それを受け流してしまうことは多くあります。そんな一見些細に思われる「なぜ？」を追究してきたのがニュートンのような研究者たちです。彼らによってこれまでの長い歴史の中で様々な発見がなされ、社会、文化の成熟とともに科学も発展して

いきました。昨今大きな環境問題となっているプラスチックですが、開発された当初は象牙を目的とした象の乱獲を防ぐため、つまり環境を守るために開発されたものでした。それが第二次世界大戦への需要、そして現在では生活の利便性への需要へとその開発の目的は大きく変遷していきました。「科学」は発見・開発された段階で、その結果を予測するのは困難です。つまり、私たち一人一人が「科学」を知り、正しく利用していく必要があるのです。

ところで、皆さんはご自身の代謝が良い方だと思いますか？代謝が良い、とはどういうことなのでしょう？私たちの体は60兆個もの細胞からなり、それら全てで常に様々な化学反応が行われています。これを「代謝」と言います。つまり、虹を美しいと感じること、食事を美味しいと感じることもまた、生体内の化学反応によるものです。化学は実験室で行うものだけではなく、私たち自身がまさに化学反応の場そのものなのです。大学では是非様々な科目にチャレンジしてみてください。多様な視点を持つことは、社会で役立つだけでなく、あなたの人生をより豊かにしてくれることでしょう。そして時には、ふと心に浮かんだ「なぜ？」に耳を傾けてみてください。



## [副専攻] 人文科学研究会 / 自然科学研究会

法学部では広範な知識の獲得や教養の育成を目的として、外国語科目、人文科学科目、自然科学科目など多くの科目を設置しています。とはいえ、知識や教養も体系的構築があつてはじめて総合的視野の形成に至ることは言うまでもありません。例えば「地域文化論」がIからIVまでであるといった具合に、知識を積み上げながら体系的に学習できるシステムになっています。

さらに、3・4年次用に「人文科学研究会」「自然科学研究会」を設置し、1・2年次で学習してきた人文科学や自然科学の領域を継続して深められるようにしています。そして、4年間体系的に学習してきた領域について一定の成果をおさめた場合「副専攻」として認定し、卒業時に「法学部副専攻認定証」を授与します。

副専攻認定制度では、既存の学問分野にとらわれない「知」のフィールドを新たに開拓することも奨励しています。上に挙げたモデルにとらわれる必要はなく、例えば人文科学と自然科学の2つの研究会を履修して、人文・自然の両分野にまたがる論文を書くことも可能です。

### 2024年度開講される副専攻のテーマ例(人文科学研究会 / 自然科学研究会)

- ◎アメリカの音楽文化
- ◎世界の宗教と社会
- ◎日仏交流
- ◎アラブの声:メディアを通じて
- ◎アメリカの文化と社会
- ◎イベリア半島の文化と社会
- ◎日本の思想と文化
- ◎小説を読む、書く
- ◎ことばの分析—発見の喜びを求めて
- ◎ロシアの文化と社会
- ◎現代ドイツ研究
- ◎パフォーマンス・アーツ研究 —アメリカ文化を中心に—
- ◎イギリス文化・社会とメディア
- ◎Société française
- ◎世界の文学を読む
- ◎近現代イギリスの文化と社会
- ◎ラテンアメリカの文化と社会
- ◎中国及び東アジアの安全保障
- ◎短編文学作品からイギリスの今を知る
- ◎人文・社会科学と自然科学の架け橋—環境史を学ぶ
- ◎生命科学にかかわる諸問題
- ◎流れの物理

### 「副専攻」認定の一例:生物学

- 1・2年次 【実験科目(必修)】  
生物学I・II(各半期3単位、合計6単位)  
【自然科学科目】  
心理学I・II(各半期2単位、合計4単位)、  
自然科学総合講座I(半期2単位)、他  
3・4年次 自然科学研究会III・IV[生物学]  
(各半期2単位、合計4単位)、他+卒業研究  
→ 合計16単位以上

## Minor

### 人文科学研究会



林 秀光 先生  
Xiuguang LIN

#### 人文・社会科学と自然科学の架け橋 —環境史を学ぶ

歴史研究は人間同士にまつわるさまざまな関係を描いてきましたが、テクノロジーの進歩により、今や人間とAIの関係も取り沙汰され、それを解釈し理解する新しい学問の登場が待たれています。そうした大きな時代の流れの中で、いま一度、人類に生存と文明を育む環境を提供してくれた自然との関係を捉えてみる必要性がますます重要になってきたといえましょう。

文明の誕生と環境、国際社会におけるパワー・バランスの不均衡と環境、災害や資源開発などに関する自然と人間社会の葛藤について、分野横断的な手法を通して学びます。また、中国をはじめ東アジアにおける研究動向を把握し、「人間と自然との相互関係」を捉える環境史のアプローチを取り込み、新たな分野の開拓や「知」の創造を期待します。この研究会は、受講者がそれぞれの専門である法律学や政治学の知識を生かして貢献し、互いに刺激し合うことのできる場となることを願っています。



法律学科 4年

#### 新たな「知」の開拓 —環境史のススメ

「環境史」とは、いったいどのような学問でしょうか。これを文字どおりに解釈すれば環境の歴史ということになります。歴史である以上、人文科学としての色彩はあるでしょう。一方で、環境に関する学問であるため、自然科学としての要素も欠かせません。また、自然環境と人間社会は密接不可分であることから、社会科学的な視点による分析も求められています。私たちは、このように単一の分野にとらわれることのない学際的な方法論による研究をしています。

この研究会を指導して下さる林秀光教授は、長年取り組まれている中国長江の三峡ダムについての研究によって培われた知見を惜みなくゼミ生と共有し、議論を活性化して下さります。また、ゼミ生の使用言語や国籍はさまざまで、日常的に多様な価値観に触れることができます。林秀光研究会は、まさに知のメルティング・ポットといえるでしょう。

みなさんも、以上のような稀有なプラットフォームに身を置き、主専攻たる法律学・政治学のみならず、副専攻として環境史も研究してみませんか。



# Messages from Our Faculty



## 師匠を探せ!そしてまずは1科目を制覇せよ!

法律学科教授 (憲法、言論法) 駒村 圭吾 先生  
Keigo KOMAMURA

日吉で憲法(総論・人権)を担当しています。必修ですので、みなさんが、法律学科に入学されると2分の1の確率で私の授業を履修することになります(笑)。1年次配当の必修系の法律科目を担当するのは、新しい新入部員を迎えるクラブの主将のような気分がとてもワクワクして楽しいのですが、同時に、その責任の大きさに毎年身がひきしまる思いになります。1年次の必修は、学部生が出会う「最初の法学の世界」であり、この出会いがうまくいかどうかで学部での4年間が決定されるからです。法学が好きになるのも嫌いになるのも、この出会い次第なので、必修科目担当教員の責任は限りなく重いのです。

みなさんが最初にその扉をたたくのは、民法、刑法、憲法の基本3法です。民法は、ヨーロッパとりわけフランスの香りがする法律です。私たちの日常生活のほぼすべてを規律する法律で、人と物に関する神羅万象が詰め込まれた重要法典です。

刑法は、罪と罰に関する法律で、生々しいリアルな事例を扱います。しかし、生々しさやおどろおどろしさも吹っ飛ばような峻厳で冷徹なドイツ流の論理と哲学で、問題を料理してくれます。法律学に素人を寄せ付けないロジックを期待する学部生は、たいてい刑法好きになります。

さて、私が担当する憲法は「政治や権力を規律する法」です。政治も権力も、取引や契約という日常とも、犯罪や刑罰という非日常とも、若者にとっては馴染みが薄く、大きく距離のある抽象的な世界のように見えます。しかし、実は、政治も権力も、

極めて深刻なリアリティを持つ劇的な現象です。戦争や殺戮が、ウクライナやパレスチナの惨劇のように、これほど日常的に報道されることがあったでしょうか。金権体質や腐敗の構造が政治関連ニュースにならない日はありません。21世紀の現在でも、尊厳を認められずに社会から排除された人たちはたくさんいます。

そう、憲法は、政治や権力がリアルな話題であることを知るためにも、大学生には必須の教養なのです。また、「世界を知りたい、社会を理解したい」という学部生にとっては世界や社会を見通すためのフレームワークを提供するのも憲法の授業の重要な役割です。

ここで、みなさんにアドバイスです。上に見たように、民法、刑法、憲法の3科目だけでも、それぞれ違いがあります。しかし、そうであっても、法学である以上、どこか共通する部分も多くあります。判例を大事にすること、条文の言葉にこだわること、法的三段論法という「作法」や「型(カタ)」があること、等々。これらは法学一般の鉄則ですので、科目の違いを超えて、身に付けていただきたいと思えます。

ですので、まずは1科目を制覇しましょう。自分の興味をそその科目、自分が気に入った教員、理由は何でもいいので、とにかく1科目を定め、徹底的に付き合い、しっかりノートをとってみてください。他の科目にも通用する作法が身に着いているはず。その意味では、法学はどの入り口から入ってもおなじところに行きつく学問です。

# Messages from Our Faculty



## 批判精神をもって私たちをとり巻く権力の構造を解明しよう

政治学科教授 (現代中国政治) 小嶋 華津子 先生  
Kazuko KOJIMA

私たちは日々の生活の中で、新聞、テレビ、インターネット、書籍、雑誌など、さまざまなメディアから、自分の暮らすコミュニティ、地域、国家、世界、宇宙に生じている事象についての情報を得て、より幸せに生きるための判断を下しています。日々メディアを賑わせる汚職、少子化、ジェンダー格差、過疎化、景気低迷、デジタル化、個人情報保護、経済安全保障、認知戦、米中対立、テロ・戦争、貧困、環境破壊、地球温暖化……私たちの眼前に広がる問題群を、「公的権力」のあり方に着目して分析し、人間の自由と豊かな生活をもたらす権力のあり方を構想するのが政治学という学問です。

政治学の特徴は、その対象の広がりやアプローチの多様性にあると言えるでしょう。例えば、政治学の主なテーマの一つである「民主主義」をとっても、政治思想史や規範的な理論に基づいて民主の在り方を論じることもできれば、経験や実践から帰納的に理論を導き出すこともできます。日本や各国、地域社会の内在的視点に基づいて論じることも、特定の指標に基づいて異なる国や地域の民主の状況を比較することもできます。また、「民主主義」という価値が国家間関係や国際組織を通じたガバナンスの道具としてどのように用いられ、どのような影響をもたらしているのかという観点も重要です。

慶應義塾大学法学部政治学科には、4年間かけて、包括的かつ専門的に政治学という学問を探究できるようなカリキュラムが整っています。5つの系列——①政治思想、②政治理論・

政治社会、③日本政治、④地域研究・比較政治、⑤国際政治におよぶ80以上の科目を提供している大学は、他にも類を見ないでしょう。また、演習や特殊研究、研究会(ゼミ)など、多様な少人数の授業も設置されています。「半学半教」の精神に基づく教員や仲間との議論こそ、答えのない政治学という学問を究める上で大事だと考えるからです。

政治学科に入学された1年生の皆さんには、二つのことを求めたいと思います。一つは、自分の好奇心に任せ、時空を超えて、分野を超えて幅広く関心を寄せることです。権力の及ぶところにあまねく政治があります。社会科学のみならず、自然科学、医療、文学、芸術、スポーツ……好きな分野に真剣に取り組んでください。その取り組みは、必ずや政治学科で培った視点と繋がり、社会を豊かにするアイデアとして結実するでしょう。「高い山ほど裾野が広い」とは、真実を言い当てていると思います。

もう一つは、すべての情報ソースの背後にある権力関係に目を配ることです。インターネット情報はもちろん、大手メディアも、また『政治学』の教科書ですら、時々の権力構造の産物である点に違いはありません。生成AIの出してくる答えはなおのこと、一定の権力構造によるバイアスがかかっています。皆さんには、情報を鵜呑みにすることなく、あらゆる言説の背後にある権力関係を踏まえて、観察対象を捉え、自立的に考える習慣を身につけてほしいと思います。

# ＼ 新入生に聞きました！ /



## 慶應義塾大学法学部を選んだ理由は何ですか？

**Hさん**● 私はアメリカ生まれで、4歳から7歳までフランスで過ごしました。その後、私立の中高一貫校へ進学しました。その高校の英語の授業がとても面白かったのです。テストありきの勉強ではなく、小説や時代背景と結び付けて根本の部分に触れながら学ぶという授業でした。大学でもそのような学び方をしたいと思い、リベラルアーツ教育が充実している慶應義塾大学を選びました。

法学部を目指したのは、高校生の時に参加した模擬国連の活動がきっかけです。全国から集まった高校生が各国の国連大使になりきって議論を交わし、政策を立案します。そこで「理想」だけでは現実には動かせないということを実感しました。政策の背景には「法」という揺るがない権威があり、それが各国の文化に根ざしています。そこでしっかり「法」を学んで、弁護士になりたいと思うようになりました。



弁護士として  
日仏間の  
架け橋になりたい

法律学科 1年  
Hさん

**Sさん**● 私はインドネシアで生まれて、現地で15年間を過ごしました。高校生から東京へ来て、都立の高校に入学。日本は今年で4年目になります。そういった背景から国際関係に興味があり、法律と政治を両方学べる慶應義塾大学を選びました。実際に授業が始まってみると歴史や経済史の授業が面白く、それ以外にもなるべく幅広い科目に触れるようにしています。自分が何に興味があるのかが分かりますし、教養にもなるからです。1年生から2年生までは一般教養の科目が充実しているので、自分の中に幅広い知見を蓄える期間として考えています。

**Wさん**● 私は仙台市出身で、日本生まれの日本育ちです。法学部に興味を持ったのは、小学生の時に見たドラマに憧れて、検事になりたいと思ったのがきっかけです。ただ、それとは別に政治学科を選んだ理由があります。2014年に選挙権が18歳に引き下げられた時、高校生だった私は、自分が政治的意見を持っていないことに不安を感じました。そんな私に対して、父は世の中の情勢を“なぜ？”“どうして？”と深掘りすることの大切さを教えてくれました。世の中の情報に対して受け身にならないように、政治と法律をバランスよく学べる場として慶應義塾大学の法学部を選びました。

## 実際に授業を受けてみた感想はいかがですか？

**Wさん**● とても面白いです。今受けている授業で『日本政治基礎』という科目があるのですが、戦時中の政治のやり方を

# Interview with Our First-Year Students



日本の政治教育を  
変えていきたい

政治学科 1年  
Wさん

取り上げています。たとえば、日本人の帰属意識や閉鎖性がどのように陸軍と海軍のズレに繋がっていったのか、という視点です。これはどの国にも言えることで、ドイツのホロコーストも同じです。政治のあり方ひとつでこんなにも人は変わってしまう。その国の国民がもともと持っている気質があり、その思考を時代ごとに反映しているのが政治ではないかと思うのです。私たちは政治を“制度”や“仕組み”のように捉えがちですが、人間という存在そのものと結び付けて考えるという視点は、大学ならではの面白さだと感じています。

## サークル活動をしていますか？

**Sさん**● 国際関係会というサークル (I.I.R) に入り、米国スタンフォード大学との交流プロジェクトを担当しています。海外の学生と話していて感じるのは、歴史的事実に対する考え方が根本的に違うということです。例えば、アジア通貨危機、ブラザ合意、第二次世界大戦などは実際に起きた事実ですが、どこの共同体に属するかによって視点が全く違います。議論するにしても、何が正しいという単一の見方は成立しません。ですから結論を求めず、思考を深めていきます。その経験が、自分の視野を広げる機会として役立っています。

## これから挑戦したいことや目標を教えてください

**Hさん**● 高校ではできなかった勉強の仕方ができるのが、大学の良いところだと感じています。だからこそ、自分で選択していく責任も感じています。私は法律系のサークルとバスケットボール、絵画サークルにも入っていますが、それぞれに色々な人がいて、様々な価値観に出会うのです。そこで得たものを成長につなげられるかは自分の心がけ次第ですよ。学生生活は無限ではないので、1～2年のうちに将来のビジョンを描いて、それを自分の言葉で説明できるようになりたいと考えています。現時点では、フランス帰国子女である背景を生かして弁護士になり、日仏間の架け橋になることが目標です。

**Sさん**● 僕は東アジア情勢に興味があり、日本とASEAN (東南アジア諸国連合) の関わりに注目しています。日本は先進国でありながら、少子高齢化で生産年齢人口が減少していきます。一方インドネシアは今まさに経済発展の最中です。その両国がどのような関係を築いていくかは一つのモデルケースになるのではないでしょうか。そこには移民政策や法整備なども関わってきますから、現在の学びの延長上にあるのです。実際、今年8月に開かれたG7広島サミットのユースフォーラムで、各国の参加者60人とともに“法”をテーマにした小論文を作成し、ASEAN各国の法務大臣に提出しました。そのような活動の場にこれからも積極的に参加していきたいと思っています。

日本とASEANの  
関わりについて  
学んでいきたい

法律学科 1年  
Sさん



**Wさん**● 私は政治教育に関心があります。私がそうだったように、日本の子どもたちは政治に対する関心が薄いですよ。それは政治を身近に感じる機会が少ないからだだと思います。でも現実には、私たちの生活そのものが日本の政治のあり方の結果ですし、今もその仕組みの中にある。その認識なくして生きていくことは、民主主義の国でありながら自国の政治に責任を取れなくなってしまうことと同じではないでしょうか。ですから、その現状を教育から変えていきたいと思っています。具体的には、国家公務員になって政治が動く現場で力をつけたいと考えています。そしていずれは自分が中心になって日本の政治教育を変えていくのが目標です。その夢に向かって、一日一日のキャンパスライフを充実したものにしたいと思います。



# Messages from Our Current Students



## 打ち込んでいるものがある そして夢もある

法律学科 4年

大学では体育会ラクロス部に所属しています。小さな頃からスポーツが好きで、中学高校ではバスケットボールをやっており、大学でラクロスを始めました。ラクロスは展開が速いので、そのスピード感や、皆でボールをつないでシュートが決まる瞬間がとても好きです。昨年は学生日本一になりました。今年も連覇を目指していたのですが、残念ながら敗退。最終学年でスタメンとして試合に出ていたのが、とても悔しい思いをしました。

関東学生ラクロスリーグ戦



しかし、4年間の部活動で多くのことを学びました。沢山の方の支えがあって走り続けられること、仲間と共に切磋琢磨を出来る喜び、どんなに苦しい局面でも顔を上げる。これらの学びを活かして、新たなステージでも懸命に走り続けたいと思います。

体育会での活動をしながら、私は夢である法曹界で働くための勉強もしています。法律家への憧れが生まれたのは中学生の時、裁判官だった曾祖父の回顧録を読んで感動したことがきっかけです。今は正義を追求することのできる検察官になるのが夢です。

体育会と大学や司法試験に向けての勉強を両立するのは、時間がなくて大変なのではないか、とよく言われます。でも時間は作るものだと思いますし、限られた時間を効率よく使えば、不可能はないと思います。ラクロスに打ち込み、一方で法律家になるという夢のために勉強してきた大学生活は、とても充実していました。卒業後はロースクールへ進学して、司法試験に向けての勉強を続ける予定です。ロースクールでの勉強はより厳しいものになると思いますが、大学生活においてスポーツと勉強で培った胆力を強みに頑張りたいと思います。

# Messages from Our Current Students



## 真のクリエイティブとは 本気で響きあえるハイレベルな仲間たち

政治学科 4年

将来はバラエティ業界で働きたいという夢があり、メディア系に強い大学として慶應義塾大学法学部を選びました。大手広告代理店とマスコミに内定を頂き、4月からNHKのスポーツディレクターとして働く予定です。実際に番組制作に関わるのがとても楽しみで、期待で一杯です。

学生時代を振り返ると「楽しかった」の一言に尽きます。一番印象に残っているのは、国際交流サークルで過ごした時間です。正式名称は国際関係会 (Institute of International Relation) で、世界各地の協定校と連携し、国際親善を深めるための活動をしています。私は米スタンフォード大学との企画を担当していました。全員がクリエイティブで、積極的。打ち合わせの場面でも意見が出ないという場面がありません。慶應義塾大学ならではの「伝統」の素晴らしさを肌で感じました。

慶應義塾大学は、この多様性のレベルが高いと感じます。それぞれの学生が自分なりのエキスパートを持っていて、なおかつ優秀な人が多い。ですから話していて面白いですし、刺激にもなります。「この人には敵わない」と思える人たちと本気



1年生の頃、国際交流サークルにて

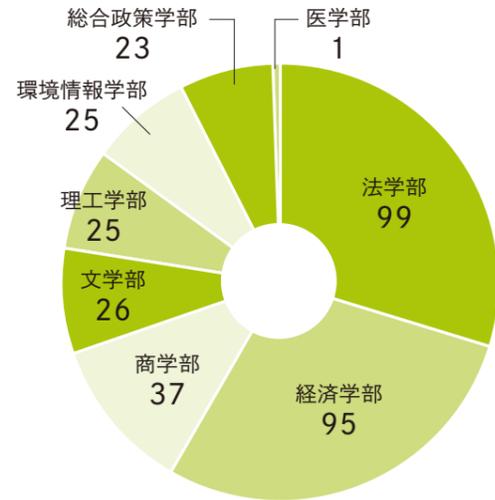
で切磋琢磨し合える。このフィードバックの確かさが、本当の意味での多様性だと思いました。

何らかの「強み」を持ちたいと思っている人は、慶應義塾大学をおすすめします。ここでの出会いは、きっと皆さんの人生にプラスの力を与えてくれるに違いありません。自分の思いを信じて、充実したキャンパスライフを送ってください。

# 国際交流

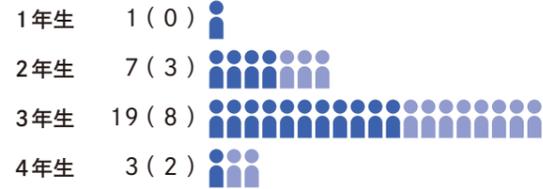
法学部は、慶應義塾大学における在学期間への留学期間の算入、海外の大学で履修した単位の認定など、世界に羽ばたくみなさんを制度の面でも応援しています。

## 派遣留学データ



派遣留学者数 (2023年5月1日現在。交換・私費を含む)

### 法律学科



小計 30 (13)

### 政治学科

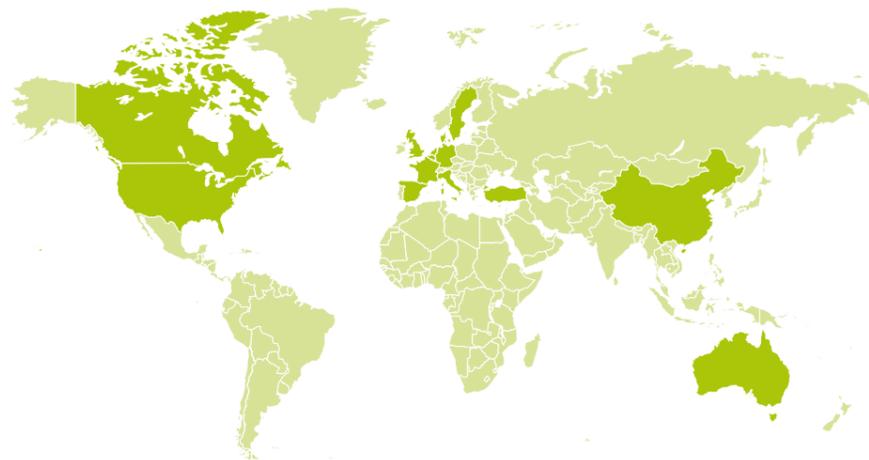


小計 69 (39)

合計 99 (52) ※ ( ) 内は女子で内数

## 派遣留学先(法学部)

国・地域別全学年合計人数 (2022年5月1日現在)



|         |     |
|---------|-----|
| 米国      | 27  |
| イギリス    | 12  |
| カナダ     | 12  |
| スウェーデン  | 9   |
| フランス    | 8   |
| スイス     | 6   |
| オランダ    | 5   |
| オーストラリア | 5   |
| スペイン    | 4   |
| デンマーク   | 3   |
| ドイツ     | 2   |
| 中国      | 2   |
| 韓国      | 1   |
| シンガポール  | 1   |
| トルコ     | 1   |
| イタリア    | 1   |
| ベルギー    | 1   |
| 計       | 100 |

※ 2カ国に留学するプログラムもあるため、国・地域別留学者数の合計は留学者数の合計と異なります。

## 夏休みや春休みを利用したプログラム(2023年度)

|    | プログラム                  | 国名・地域名                        | 定員(人) | 法学部参加者数(人) |
|----|------------------------|-------------------------------|-------|------------|
| 夏季 | ウィリアム・アンド・メアリー大学       | アメリカ<br>ウィリアムズバーグ / ワシントンD.C. | 25    | 10         |
|    | ケンブリッジ大学<br>ダウニング・コレッジ | イギリス<br>ケンブリッジ                | 45~60 | 14         |
| 春季 | パリ政治学院                 | フランス<br>パリ                    | 18~30 | 13         |

## 留学のてびき

### 留学には形態があるの？

留学の形態は、(1) 外国語の習熟を主な目的とする語学研修、(2) 在学中に海外の大学などの高等教育機関で自分の専門分野や関心分野についての授業を履修することを目的とするもの、(3) 外国の大学での学位取得を目的とするもの、に大別できます。通常、(1)の語学研修は「留学」と認められず、慶應義塾大学を「休学」して留学することになりますが、(2)と(3)の場合は「留学」と認められる場合が多く、在学期間に算入できます。

### 語学力は？

米国やカナダの大学・大学院の学位課程に入学を希望する場合、次の学力テストスコアの提出が求められることがあります。

- ① SAT (Scholastic Assessment Test)
- ② GRE (General Record Examination)
- ③ GMAT (Graduate Management Admission Test)
- ④ LSAT (Law School Admission Test)

また、TOEFLやIELTSは英語を母語としない人が対象の英語力判定試験です。これらは慶應義塾大学の交換留学出願の際にも要求されることがあります。

### 派遣交換留学制度ってどんなもの？

慶應義塾大学は、海外のさまざまな大学に交換留学生を1学年間派遣しています。この制度は、慶應義塾大学と協定大学が双方の学生に外国での大学生活を体験する機会を提供することにより、学生の国際感覚の育成と視野の拡大を目指すものです。

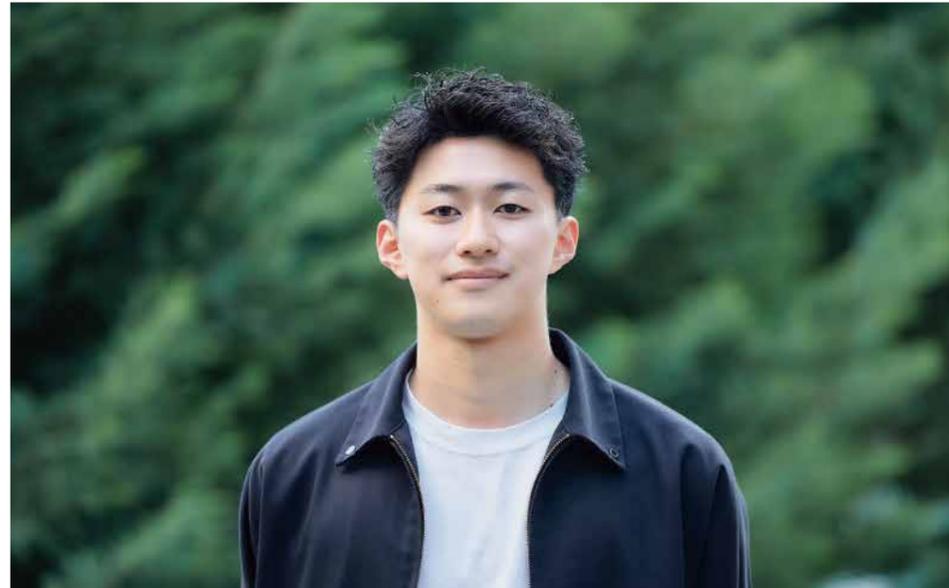
### 留学費用はどうなるの？

派遣交換留学の場合、学費は慶應義塾大学に納め、派遣先の大学での学費は免除になります。また、慶應義塾大学や派遣先の大学、日本学生支援機構(JASSO)の奨学金が支給される場合もあります。

### 短期海外研修プログラムってなに？

短期プログラムでは各大学の学生との交流、さまざまな講義、フィールドワークやグループワークなどを通して学びます。知識を広げ、学問を通じた交流を行う絶好の機会となり、また授業単位の認定がされるプログラムもあります。





## 留学を通して自分自身と 本気で向き合うことができました

 アメリカ ウェスタンミシガン大学  
法律学科 4年

私は、大学入学当初、コロナの影響により、自身が思い描いていたような学生生活を送れずにいました。その中で、「本当にこのままで良いのか」という思いが段々と湧き、こうした環境を変えるためにも、交換留学について考えるようになりました。

私が留学先として選んだのは、米国のウェスタンミシガン大学です。主に日本での自身の専攻と関連した分野について学びましたが、英語で行われるディスカッションや膨大な量の課題に、日々ついていくのが精一杯でした。それでも、留学先での専門的な学びは大変価値あるものでしたし、その経験をきっかけに大学院への進学を決めることができました。

留学中には、トライアウトに合格し、バスケットボールのクラブチームに加入することができました。加入当初は、言葉が通じない上、圧倒的な競技力の差を感じさせられました。しかし、そうした逆境の中で、語学、競技それぞれの面において努力し、最後までやり抜いたことは、自分を大きく成長させてくれました。そして何よりも、素敵な仲間と出会い、共に多くの時間を過ごしたことは、何ものにも代えがたい、大切な思い出です。

私は海外経験が無く、英語力にも全く自信がありませんでしたし、留学に対する優れた志もありませんでした。それでも、留学を通して多くの挫折を経験し、自分自身と真剣に向き合い、受け入れ、その中に価値を見出すことができたのは、私の人生にとって、大きな財産になりました。みなさんも、留学に行きたいという思いが少しでもあれば、自分を信じて頑張ってみてください。



クラブチームにて



## YOLO! You Only Live Once 一度きりの人生、やりたいことを!

 カナダ カルガリー大学  
政治学科 3年

私は大学の交換留学制度を使って、大学2年の夏からカナダのカルガリー大学に留学しました。留学は中学の頃からの夢でした。海外留学の希望を応援してくれた両親にはとても感謝しています。カナダを留学先に決めたのは、治安の良さや人々の多様性が理由です。実際に、留学先で私が住んでいた寮には、アジア、ヨーロッパ、中東など、様々な国から留学生が来ていました。部屋に世界地図を置いて、出身国にピンを指してもらおうと、世界中にピンが立ちました。

カナダでの最初のセメスターでは、授業についていくのが本当に大変で、毎回授業を録音してその日の夜に聞き直して復習する、という日々が続きました。次のセメスターでは少しは慣れましたが、それでも毎日、分厚い教科書を数十ページ読んで授業に参加するという日々でした。それだけ勉強は大変だったのですが、それでも留学生活はとても充実していて、帰国してからしばらくカナダロスになるほどでした。

カナダで出会った人たちは、人生の楽しみ方がとても上手で、私もかなり影響を受けました。オンオフがはっきりしていて、月曜から金曜までしっかり勉強して、金曜の夜から週末は友達と遊んだり趣味に時間を費やしたりするのです。

これから大学生になる方、留学しようか迷っている方には、YOLOという言葉を送ります。人生一度きり、興味のあることにはとことんチャレンジしてほしいです。もちろん私も、これからは挑戦心を持ちながら、グローバルに活躍するという夢のために頑張りたいと思っています。

大学内からオーロラを見られた



# 卒業後の進路

法学部の卒業生は様々な分野で活躍しています。学生時代に徹底的に学んだ経験と大きく広げた視野は、自らの将来の選択肢を多く持つことにつながっています。

## 慶應義塾のサポート体制

就職に向けた活動は一般的には大学3年生の春ごろから始まります。就職活動は、自分自身を見つめながら将来を見据える貴重な機会です。独立自尊の気風が就職活動にも表れ、慶應義塾は「最も就職に強い大学」のひとつと言われるほど、毎年高い実績を残しています。大学では主に就職・進路支援担当が下記を中心にサポートを行っています。

### 就職・進路相談

各キャンパス就職・進路担当部署が、就職・進路全般に関する相談に応じています。

三田学生部就職・進路支援担当では、履歴書・エントリーシートへの添削や模擬面接などにも対応しています。

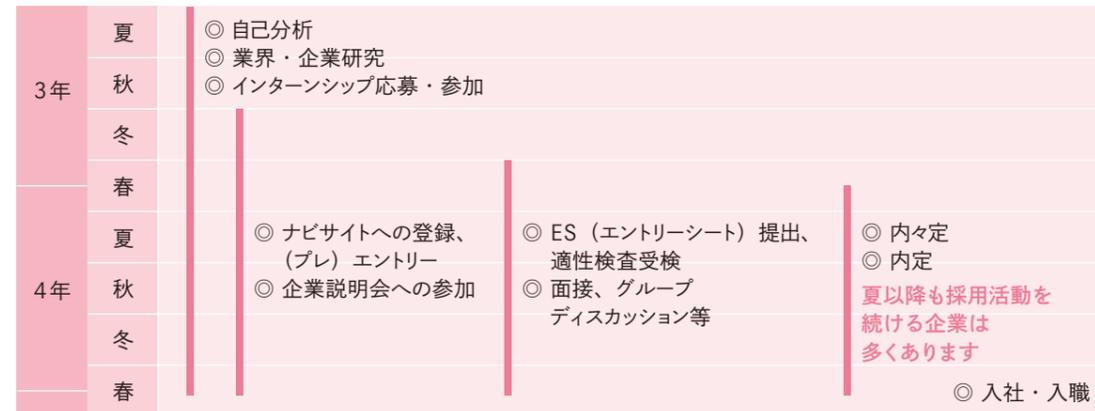
### 情報提供

企業から届く求人票、企業情報、企業説明会案内など、多数の情報を閲覧することができます。また、OB・OG訪問のための卒業生へのコンタクト先を学内の専用システムで検索できるほか、先輩たちによる就職活動体験記がkeio.jpから閲覧できます。いずれも塾ならではの貴重な情報です。

### 就職・進路セミナー・講座

就職活動や進路選択の上でおさえおきたい入門編をはじめ、就職活動の進め方、応募書類の書き方、面接対策、内定者（4年生）による座談会や専門家による各種講演など複数のセミナーを開催しています。

## 就職活動の流れ(一例)



### インターンシップ

学生が企業・団体の現場で実際に就業体験を行ない、社員からの指導やフィードバックを受けることで自らの能力を見極め、企業理解を深めること。現在、多くの企業や官公庁で実施されている。夏休み、冬休み、春休みなど、授業に重ならない時期に設定されるのが日本の原則。

### 業界・企業研究

興味を持った業界や属する企業・団体の現状・課題等について、様々なツール・資料を用いて調べ理解すること。自分のやりたい仕事を明確にし、働くことへの熱意を示すための根幹となる作業なので、しっかり取り組もう。

### OB・OG訪問

社会人として活躍されているOB・OGに会い、実際の社風や日常業務など各企業・団体の生きた情報を教えていた

だくこと。サークルやゼミの先輩に直接連絡したり、学内の専用検索システムなどを利用して、会いたいOB・OGを探してみよう。

### エントリーシート

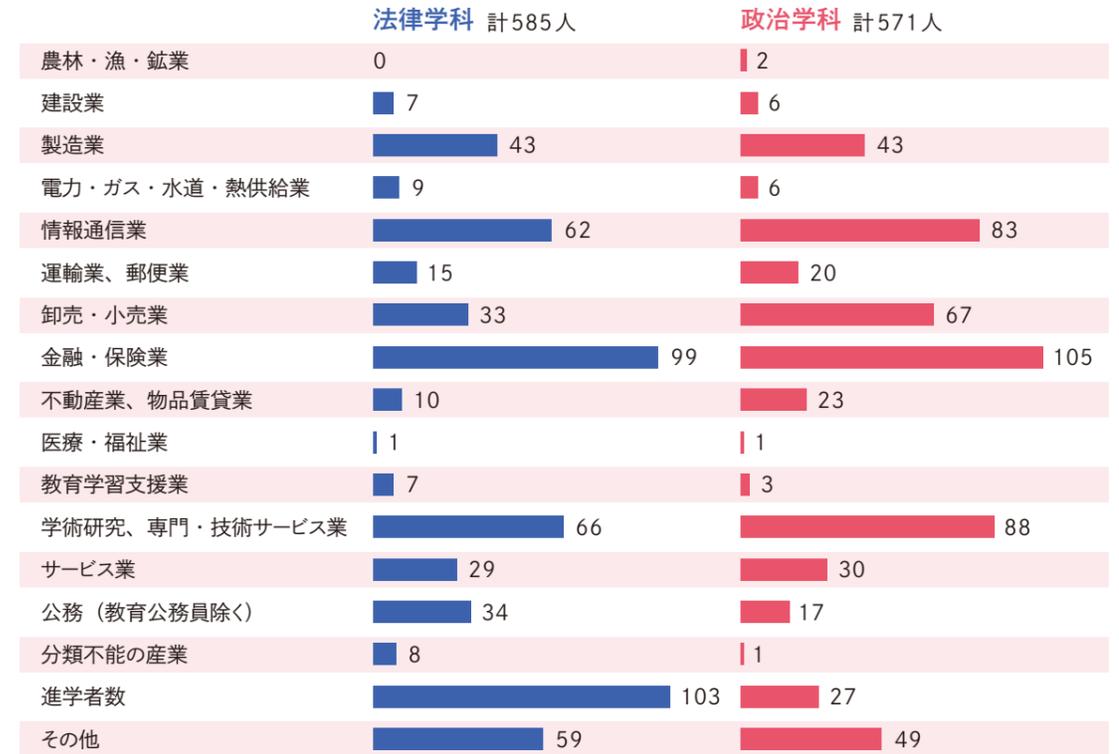
履歴書のほかに企業が独自に作成する応募用フォーマット。設問の意図を的確に把握することが一番のポイント。積み重ねてきた活動のほか、事前に行った企業研究や自己分析に基づいた、意欲と熱意のこもった回答を用意しよう。

### 内定

適性検査、書類選考、面接等の結果によって、企業・団体から応募者に対し採用の意思表示がなされた状態。なかなか決まらない場合は、大学に送付された求人票や大学の個別相談なども利用してみよう。複数の企業から採用内定を受けた場合は、熟考の後、速やかに辞退先に連絡すること。

## 業種別就職及び進学等状況

注：2023年5月1日現在の原則として本人からの進路届に基づく。  
2022年9月の卒業・修了者を含む。  
就職者に進学就職者（進学と就職のどちらにも当てはまる者）を含む。



## 卒業後に活躍している主な分野

### 一般企業

会社は、営業、人事、総務、法務、経理など様々な職種の融合体です。どの職種でも共通して求められるのは理解力、分析、行動力、コミュニケーション能力といった根本的な力です。法学部では専門科目以外にも多彩な科目が用意されており、そこで得た幅広い見識や、自ら問いを見つけて解決に導く学びはどの職種でも生きてきます。

一口に民間企業と言っても様々な業種があり、上図のとおり法学部出身者の就職先業種は多岐に渡っています。

なお、法学・政治学を切り口に様々な社会問題に触れるなかで、メディア業界に興味を抱く学生も毎年多くいます。本学には大学附属研究所の一つとして「メディア・コミュニケーション研究所」が設置されており、入所試験に合格すると通常の授業とは別に専門的な研究を行うことができます。

### 法曹（裁判官、検察官、弁護士）

訴訟、調停、法律相談などの一般民事事件、日本企業の海外進出等をサポートする企業法務など、法律が必要とされる場面は拡大・深化し、質の高い法律家が求められています。

慶應義塾のロースクールは司法試験合格者数上位の実績があり、卒業生は司法機関、行政機関、法律事務所、

企業内、グローバルな領域などでそれぞれ力を発揮しています。

ロースクールに入学するには入試に合格する必要がありますが、法学部の教授陣はロースクールの教授を兼ねる場合もあり、学部生の時からゼミなどで法的な思考を身につけることができます。

### 公務員

変化の激しい社会の中で、公務員も強い変革の力と柔軟な発想力が必要とされています。自ら求めれば精一杯応えてくれる法学部の教育環境で培われる、物事を批判的に考える力、問題点を意識して自身の思考を深め表現する力は官僚としての確かなベースとなることでしょう。

国の政治を支える国家公務員総合職のほか、各省庁でエキスパートとして活躍する国家専門職、身近な行政の担い手である地方自治体職員や、国境に捉われず世界を舞台に課題解決に取り組む国際公務員など、公務員も個々の志望によって様々な選択肢があります。

※慶應義塾大学法学部は、法律学・政治学等の学修を授業以外でも支援する目的で、法学研究所という機関を有しています。所定の手続きを済ませた研修生は、随時開催される講演会・研究会等に参加することができ、法曹や国家公務員等のキャリアを考える一助となっているようです。

# Messages from Graduates



## 切磋琢磨できる仲間との出会い それが一生の財産に

〈法律学科2021年卒〉

長島・大野・常松法律事務所 弁護士 三浦 雅哉 さん  
Masaya MIURA

企業法務専門の弁護士事務所に所属し、主に労働問題に関する案件を扱っています。解雇、懲戒処分、残業代、ハラスメントなどの問題は、企業側が適切な対応をしなければ労使間の紛争に発展し、会社経営にまで影響を及ぼします。だからこそ、法律のプロとして適時適切な対応が求められます。こうした対応を実現する上で求められる、関連する法令や裁判例に対する徹底的なリサーチの基礎は、学生時代に身につけることができました。

学生時代は大学の授業、サークル活動、ゼミ活動を三本軸に取り組んでいました。法律学科の1年生の授業は必修科目（憲法、民法、刑法）の基礎から始まりますが、この頃から法律の勉強に興味を抱き、司法試験に向けた勉強に取り組み始めました。2年生の後半からゼミに所属。最も有意義だったのは「議論」の時間です。専攻は民法だったので、学生にも比較的身近な法律問題に関する裁判例が題材になります。裁判例そのものや、当該裁判例に関する判例評釈を読みくだけ、原告被告の主張、裁判所の判断や学者の見解を

分析し、ゼミ生同士で意見をぶつけ合うのです。アウトプットを前提に勉強することの大切さを学ぶことができました。

何事にも真剣に取り組む仲間巡りに巡り合えるのが、慶應義塾大学で学生生活を送る一番のメリットだと思います。卒業後の進路は人によって様々ですが、生涯にわたって励まし合える仲間に出会えたことが、私の人生にとって大きな財産になりました。ぜひ、素晴らしい仲間巡りに巡り会い、有意義なキャンパスライフを過ごしてください。



大学時代、友人と登った南アルプスでの一枚

# Messages from Graduates



## 素晴らしい仲間と環境に 支えられて

〈法律学科2019年卒〉

TBSテレビアナウンサー 近藤 夏子 さん  
Kako KONDO

私はちょうど大学に入学するタイミングで、タレント活動を始めました。大学卒業後は就職するつもりでしたから、学業を両立するために学校の授業にはしっかり通っていました。大学生活は本当に楽しかったです。1、2年生は必修科目が多く友達と会える機会がたくさんあり、また3年生からゼミに入りました。その頃はスポーツ番組のMCを務めていたのでタレント活動がとても忙しかったのですが、教授やゼミ生の仲間が支えてくれました。皆さんには感謝の気持ちで一杯です。

現在はTBSテレビでアナウンサーとして活動しています。食レポをしたり、バラエティのMCを務めたり、生放送のリポートをしたり、様々な仕事にチャレンジしています。2022年4月からは、深夜のスポーツ番組のメインキャスターに起用していただくなど、アナウンサーとして充実した日々を送っています。

私が大学で得たものはずばり“仲間”です。今も仲の良い友達は、みんな大学で出会った人たちです。仕事の悩みを相談するときにも、昔の自分を知っている人の前では「あの頃」の自分に帰ることができます。就職活動でも、“慶應”の絆

にたくさん助けられました。

大学生活では、自分で時間を作ることができます。好きな勉強をしたり、ご飯を食べたり、旅行に行ったり、新しいことにチャレンジできる。そしてその経験や思い出が、その時にとどまらない価値をもっていたことは、社会人になってから気づきました。これから大学生になるみなさんにも、きっとそういう出会いがあるはずです。頑張ってください。応援しています！



世界陸上2023ハンガリーで選手インタビュー



## ソマリア紛争地帯での対話 運命に挑戦された者として

〈政治学科2021年卒〉

NPO法人アクセプト・インターナショナル 海外事業局 山崎 琢磨 さん  
Takuma YAMAZAKI

現在、NPO法人アクセプト・インターナショナルに所属し、アフリカ東海岸のソマリアという国でテロ組織にいた若者の更生支援を行っています。テロ組織に関わりをもつ若者たちと対話し、過激派組織から抜け出せるようにアプローチするという活動です。職業訓練や識字教育など、社会的な自立へと導くための包括的な支援も行っています。

アクセプト・インターナショナル代表の永井と出会ったのは大学1年生の春でした。活動の話聞いたとき、本質的なことをしていると強く感じました。難民支援は世界中で行われていますが、“紛争”そのものが無くならないと本当の解決にはなりません。在学中2年生の時に2回ソマリアの隣国ケニアの首都ナイロビに渡航。3年生で1年休学し、再びナイロビを拠点にソマリアに向けた支援活動を行いました。

帰国してからは杉木先生のゼミに参加し、アフリカの紛争解決と平和構築についての学びを深めました。そして大学を卒業した2021年にアクセプト・インターナショナルに正職員としてジョイン。なぜ争うのか、何を訴えたいのか… 彼らの

ことを否定してもうまくいきません。なぜなら彼らは平和の戦士であるという教育を受けているからです。でも、目的は一つだとしても他にも手段はある、と伝えることはできます。

一番大切なものを守るために、私たちにできることは何か。同じ立場で考え、違う論点を与え、より良い未来に導いていく。若者たちが武器を置く日まで、私たちの“挑戦”は続きます。



ソマリアの刑務所でのワークショップの様子



## ジャーナリストの原点 私たちの可能性は無限大

〈政治学科2018年卒〉

NHK記者 榊 汐里 さん  
Shiori SAKAKI

NHK長崎放送局に赴任し、記者として、長崎の地域のニュースの報道や取材記事を執筆しています。生活者に一番身近である私たちが、世の中にどのような情報を届けられるのか。そこにジャーナリストとしての使命感を感じながら活動しています。

学生時代は「S.A.L.」という学生団体に所属し、発展途上国のスタディーツアーを企画して映像ドキュメンタリーを作るなどの活動をしていました。最初に行ったのはバングラデシュ人民共和国です。渡航前は貧困という暗いイメージがありましたが、現地に着いてみると予想と全く違いました。たしかに経済的には貧しいかもしれないのですが、みなさん笑顔がとても素敵なのです。ご飯を食べて、友達と遊んで、勉強して…という日本と変わらない日常が流れている。この現実を、日本に持ち帰って“伝えたい”。そう思いました。

それからは色々な国をバックパックで旅をしました。大学在学時に世界中の30カ国以上を回りました。そこで見たものを日本に持ち帰り、何ができるのかを常に考えていました。

また、学部の授業とは別にメディア・コミュニケーション研究所（メディコム）にも入所して学んでいました。メディコムでの出会いと学びも、今の私に大いに繋がっています。

大学での授業は高校までと違い、“あなたはどうかと思いませんか？”と、自分で考える力が求められます。そこで考えたことを、行動に移していけるのが大学生活です。思ったことは全部できます。限界を決めずに、皆さんのキャンパスライフを楽しんでください。



記者としてニュース解説

# 大学院への進学

大学卒業後、法律・政治に関する高度な専門教育を受けようとする場合には大学院法学研究科へ、弁護士などの法曹をめざす場合には法務研究科（ロースクール）へ進学し、さらに学問を深めることができます。法学研究科には、民事法学、公法学、政治学の3つの専攻分野があります。

## 法学研究科への進学

大学院修士課程（2年）は、研究者や高度の専門的知見を要する職業に就くために求められる能力を培うことを目的とした課程です。修了後は就職するか、後期博士課程（3年）に進学し研究を続けるのが一般的です。

修士課程を修了した学生の多くは、一般企業に就職しています。後期博士課程を修了した学生は、大学教員や研究者のほか、各種研究機関の職員や国際公務員になる者もいます。

大学院法学研究科修士課程には一般の大学院課程に加え「専攻コース」も設置されています。今日、様々な分野で、より高度な専門的知識を持つ人材が必要とされています。実社会の要請に応えるものとして設置されたものです。

公法学専攻修士課程に設置されている「宇宙法」、政治学専攻修士課程に設置されている「公共政策」と「ジャーナリズム」の専攻コースがあります。

大学院に進学するにあたって、通常の入試の他に、推薦入試制度があります。これは本塾法学部第4学年に在学する成績優秀な学生に対して修士課程入学試験の第一次試験を免除するものです。

### 専攻コース紹介

#### 宇宙法専攻コース

宇宙開発利用は、1957年に始まった比較的新しい活動ですが、市民生活の安全・利便性向上、地球規模課題への取組み、安全保障向上などさまざまな側面において、いまや地球社会運営の不可欠の基盤に成長しています。その結果、宇宙に特有の法律上の課題も浮上しました。そこで、宇宙を対象とする広範な業務に携わることを目指して、宇宙法専攻コースでは、ロケットや衛星の地上落下などに起因する第三者賠償、宇宙ゴミ問題、軌道上の衛星に担保権的権利を設定する場合の地上とは異なる問題点、宇宙保険、衛星の輸出管理、宇宙観光問題など宇宙活動についての法律問題を学びます。

先輩のなかには、民間ロケット打上げに携わる人もいます。また、衛星リモートセンシングや衛星通信関係法人に勤務する人もいます。宇宙を対象とするビジネスに広く興味のある人向けのコースです。

#### 公共政策専攻コース

公共政策専攻コースの目的は、将来、政治家や公務員を目指す人だけでなく、広く公共的な問題の解決に向けて活動しようとする人びとに対して、政治学的な視点から公共政策の見方・考え方を習得してもらうことにあります。したがって実務的な専門能力を重視するいわゆる公共政策大学院とは異なり、政治学というアカデミックな視点から公共政策の修士論文を作成するのが必修となっています。

将来のキャリア形成に役立つだけでなく、どの世界でも通用する人材を育てます。

#### ジャーナリズム専攻コース

ジャーナリズム専攻コースは、優れたジャーナリストの育成を目的に設置されました。優れたジャーナリストとは、旺盛な好奇心、そして豊富な情報や知識をもち、それらをもとに適切な判断を行い、社会に役立つ情報、すなわち社会の諸問題に関する報道・解説・論評を世に問う人たちを指します。

修士論文を執筆することを通して、ジャーナリズムだけでなく、重要な社会問題についての視点を学ぶこともできます。文章力を磨いたり、メディアの実状を知ることのできる、実践的な科目の履修もできます。

ジャーナリズムやマス・コミュニケーションを専攻するスタッフが、工夫を凝らした熱心な指導を行い、これまで数多くのジャーナリストがこのコースから巣立ってきました。

## 2023年 司法試験の大学院別 合格者・合格率

| 合格者 上位5校 (人) | 合格率 上位5校 (%) |
|--------------|--------------|
| 京都 188       | 京都 68.4      |
| 慶應義塾 186     | 一橋 67.2      |
| 東京 186       | 慶應義塾 60.0    |
| 早稲田 174      | 東京 59.0      |
| 一橋 121       | 神戸 48.6      |

※予備試験合格者は除く、  
合格率では受験者数10人未満を除く

## 法務研究科への進学

### 法曹養成専攻 [法科大学院（ロースクール）]

入学定員：220名  
[法学未修者コース（3年制）] 約 50名  
[法学既修者コース（2年制）] 約 170名  
<https://www.ls.keio.ac.jp>

法科大学院は、法曹（弁護士、検察官、裁判官）に必要な学識及び能力を培うことを目的とした専門職大学院です。修了すると司法試験の受験資格と法務博士（専門職）の専門職学位が取得できます。2023年度からは、一定の要件を満たした場合在学中に司法試験を受験できる制度が始まりました。

慶應義塾大学法科大学院は、理論と実務の架け橋という法科大学院の理念に加えて、国際性、学際性、先端性の3つを教育理念として、21世紀社会を先導する法曹を養成します。具体的には、法学未修者コース1年次で集中的に基礎的な法的素養を身につけ、2年次、3年次で応用的な法的思考力を養成し、各自の専門性に磨きをかけます。

#### カリキュラム

##### 必修科目

「法律基本科目」と「法律実務基礎科目」から編成される必修科目群は、司法試験において重要視されると考えられ、法曹としても必須の法律知識を養う科目群です。法律的な基礎力と応用力を磨くために、独自のオリジナル教材を開発しています。

##### 選択科目

基本的な法律知識を徹底的に身につける必修科目群に加え、多彩な広がりや専門的な深みを兼ね備えた選択科目群です。基礎法学・隣接科目のほか、展開・先端科目として8つの領域（公法系、民事系、刑事系、社会法系、国際系、学際系、外国法基礎系、グローバル系）で多彩な専門科目を展開しています。

##### ワークショップ・プログラム

必修科目群と選択科目群の頂点に位置づけられる「ワークショップ・プログラム（WP）」では、企業法務、金融法務、知的財産法務などの各分野の第一線で活躍する実務家教員と、先端研究を行っている研究者教員の指導のもと、実践的かつ総合的な教育を受けることができます。

#### 法学既修者コース特別選抜入試制度

法曹コース科目を含む所定の法律学科の科目を優秀な成績で単位修得した法学部生について3年で学部を卒業し、法曹養成専攻の法学既修者コースに入学を認める制度です。

#### 進路

修了後は、司法試験、司法修習を経て、主に裁判官・検察官・弁護士等として活躍することになります。

## グローバル法務専攻（LL.M.）

グローバル法務専攻（LL.M.コース）は、グローバル・フィールドで活躍するグローバル法曹・グローバル法務専門職を養成するために、英語を使用言語として、原則1年間（パートタイムで1.5年または2年）で学位を取得することができる専門職大学院です。完全セメスター制で、4月入学と9月入学の選択が可能です。

定員30人の少人数教育を徹底し、世界各国から国際的なバックグラウンドを持った学生が集まる環境の中で、すべての授業を英語で実施します。教員も、日本で活躍するアメリカ人弁護士や渉外法務の第一線で活躍する日本人弁護士など実務家教員を中心に構成されています。

#### カリキュラム

カリキュラムは、9つの科目群からなり、日本や諸外国の法制度について習得し、英語で発信する能力を身につけつつ、最先端のグローバル・ビジネス法務やグローバル・セキュリティ法務を学び、かつドラフティング・交渉・仲裁・模擬裁判などの実務トレーニングを受けるというチャレンジングなものとなっています。

#### 留学など

欧米、アジア、オセアニアなどの諸外国との提携を推進し、短期の海外研修や半年の留学制度、ワシントン大学（シアトル）やハノイ法科大学、ホーチミン市経済法科大学等とのダブル・ディグリー制度などを用意し、海外での拠点形成・ネットワーク形成を支援します。

**進路** 渉外法律事務所、グローバル企業法務部、国連等国際機関等で活躍することになります。

## ロースクールのススメ

慶應義塾大学大学院法務研究科（慶應ロースクール）では、法律について基礎から応用まで深く学ぶことができます。網羅的なカリキュラムが組まれており、先生にすぐに相談できる環境も整っているので、これまでに十分に法律の学習を進めてきた人もこれから！という人も安心して学習に臨むことができます。他学部出身者や社会人経験者など様々なバックグラウンドをもった意欲の高い人がたくさんいるので、そのような仲間と日々切磋琢磨しています。また、模擬裁判や実務科目の授業が必修となっており、他の学生と協力しながら実践的な法律の学びを得ることもできます。権威ある学者の先生はもちろん、現職の裁判官、検察官、弁護士の実務家の先生も数多くいらっしゃり、実用的な知識や法曹としての姿勢を学ぶことができることも慶應ロースクールの魅力の一つといえます。慶應ロースクールへの進学、自信を持っておすすめします！



法科大学院3年

# 法学部の入試制度

法学部では経験を異にする学生たちが互いに切磋琢磨しあう環境の中でこそ、法律学や政治学の修得がより実り豊かなものになると考えています。

そのため、さまざまな個性を持った学生が集まるよう入試制度の多様化を図っています。

※詳細については、一般選抜要項や各入試の募集要項、慶應義塾大学ウェブサイトの入学案内ページを必ずご確認ください。

|  |  |
|--|--|
| <h2>1 一般選抜</h2> <p>筆記試験の得点で学力をはかろうとする入試制度です。多くの学生がこの方式で入学しています。</p>  | <h2>4 留学生入試</h2> <p>海外の中学校および高校出身の留学生を対象の入試制度です。日本留学試験（EJU）の結果で出願できます。例年、募集要項発表は6月下旬、出願期間は10月中旬～下旬頃です。</p>   |
| <h2>2 FIT入試</h2> <p>FIT入試は、この学生を「教えてみたい」という法学部教員と、第一志望で慶應義塾大学法学部法律学科・政治学科で「勉強したい」学生との良好な相性（fit）を実現しようとする法学部独自の入試制度です。FIT入試（A方式、B方式）では、主体性、社会性、想像力、コミュニケーション能力など、積極的に社会で活躍し、発信する能力を評価します。</p> | <h2>5 指定校による推薦入学</h2> <p>指定校からの学校長推薦に基づく推薦入学制度です。学業以外にも優れた実績を持つ、個性豊かな学生を求めています。例年6月頃に、推薦を依頼する高等学校宛に募集要項等を送付しています。詳しくは、高等学校の進路指導の先生に確認してください。出願は11月頃です。</p> |
| <h2>3 帰国生・IB入試</h2> <p>海外の高校出身者や、日本国内で国際バカロレア資格（IB Diploma）を取得した者を、法学部の国際化の視点から受け入れようとする入試制度です。例年、募集要項発表は5月下旬、出願期間は7月上旬～中旬頃で、9月入学も可能です。</p>  | <h2>6 塾内進学</h2> <p>慶應義塾では一貫教育によって、多彩な学生を育てています。こうした学生を慶應義塾が設置する五つの高校（高等学校 / 女子高等学校 / 志木高等学校 / ニューヨーク学院 / 湘南藤沢高等部）から受け入れているのが塾内進学です。</p>                    |

入学案内ページ <https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/>



# 奨学金制度

慶應義塾大学では、創立者福澤諭吉の「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」の精神のもと、教育の機会均等を図るため、多くの方々のご協力をいただきながら、学生への支援を積極的に行っています。

|      |               | 学内                 |   | 学外  |                         |
|------|---------------|--------------------|---|---|-------------------------|
|      |               | 給付型                |   | 貸与型   |                         |
| 入学前  | 学業支援          | 学問のすゝめ奨学金          | 国による「高等教育の修学支援新制度」<br>[高校予約採用]          | 日本学生支援機構奨学金<br>[高校予約採用]   |                         |
|      |               | 慶應義塾大学給費奨学金        | 指定寄付奨学金（育英型）                            | 慶應義塾維持会奨学金  | 民間団体・地方公共団体奨学金          |
| 入学後  | 海外学習支援        | 民間団体・地方公共団体奨学金     | 民間団体・地方公共団体奨学金                          | 日本学生支援機構奨学金<br>[在学採用 無利息・有利息]   |                         |
|      |               | 指定寄付奨学金（留学支援）      | 指定寄付奨学金（留学支援）                           | 慶應義塾大学 創立150年記念奨学金<br>海外学習支援  | 日本学生支援機構奨学金<br>[海外 有利息] |
|      |               | 文部科学省 トビタテ!留学JAPAN | 慶應義塾大学 創立150年記念奨学金<br>海外学習支援            | 日本学生支援機構奨学金<br>[留学時特別増額 有利息]<br><small>※2024年度以降、<br/>日本学生支援機構貸与型奨学金利用者のみ</small> |                         |
| 経済支援 | 慶應義塾大学修学支援奨学金 | 指定寄付奨学金（経済状況重視型）   | 国による「高等教育の修学支援新制度」<br>[在学採用 / 家計急変時の採用] | 日本学生支援機構奨学金<br>[緊急採用 無利息 / 応急採用 有利息]  |                         |

# 法律学科・政治学科の先生

## 法律学科

| 憲法    |  |  |
|-------|--|--|
| 教授    | 小山 剛<br>駒村 圭吾                              | 憲法<br>憲法 / 言論法                                       |
| 民事法   |  |  |
| 教授    | 北澤 安紀<br>武川 幸嗣<br>田高 寛貴<br>君嶋 祐子<br>丸山 絵美子 | 国際私法<br>民法<br>民法<br>知的財産法<br>民法                      |
| 准教授   | 岩川 隆嗣                                      | 民法   |
| 刑事法   |  |  |
| 教授    | 太田 達也<br>亀井 源太郎<br>オステン,フィリップ<br>佐藤 拓磨     | 刑事司法 / 被害者学 / アジア法<br>刑事法<br>刑法 / 国際刑法 / 司法制度論<br>刑法 |
| 准教授   | 藪中 悠                                       | 刑法   |
| 商法    |  |  |
| 教授    | 鈴木 千佳子<br>杉田 貴洋<br>柳 明昌<br>松元 暢子<br>南 健悟   | 商法<br>商法<br>商法<br>商法<br>商法                           |
| 民事手続法 |  |  |
| 教授    | 大濱 しのぶ                                     | 民事訴訟法 / 民事執行法  |
| 専任講師  | 金 美紗                                       | 民事訴訟法  |
| 行政法   |  |  |
| 教授    | 青木 淳一                                      | 行政法 / 公益事業法  |
| 租税法   |  |  |
| 教授    | 吉村 典久                                      | 租税法 / 国際租税法  |
| 環境法   |  |  |
| 教授    | 戸部 真澄                                      | 環境法  |
| 社会法   |  |  |
| 准教授   | 淵川 和彦                                      | 経済法 / 国際経済法  |
| 専任講師  | 林 健太郎                                      | 労働法 / 社会保障法  |
| 国際法   |  |  |
| 准教授   | 武井 良修                                      | 国際法 / 海洋法  |
| 専任講師  | 尹 仁河                                       | 国際法  |
| 外国法   |  |  |
| 教授    | 前田 美千代                                     | ラテンアメリカ法   |
| 法哲学   |  |  |
| 教授    | 大屋 雄裕                                      | 法哲学  |
| 法制史   |  |  |
| 教授    | 岩谷 十郎<br>出口 雄一                             | 日本法制史<br>日本法制史                                       |
| 准教授   | 藪本 将典                                      | 西洋法制史  |

## 政治学科

| 政治思想      |   |   |
|-----------|---|---|
| 教授        | 堤林 剣<br>田上 雅徳<br>大久保 健晴   | 近代政治思想史<br>西欧政治思想史<br>東洋政治思想史 / 比較政治思想史   |
| 専任講師      | 長野 晃  | 政治哲学 / 政治思想史  |
| 政治・社会     |   |   |
| 教授        | 麻生 良文<br>澤井 敦<br>塩原 良和<br>竹ノ下 弘久<br>山腰 修三                           | 公共経済学 / 財政学<br>現代社会理論 / 社会学史 / 死の社会学<br>社会変動論 / 多文化主義(多文化共生) 論<br>社会階層論 / 社会学<br>マス・コミュニケーション論 / 政治社会学  |
|           | 鳥谷 昌幸<br>大林 啓吾<br>築山 宏樹<br>谷口 尚子                                    | ジャーナリズム論 / 政治社会論<br>アメリカの司法と政治<br>政治過程論 / 計量政治学<br>現代政治理論 / 政治意識・行動論 / 政治学方法論   |
| 准教授       | 笠井 賢紀   | 地域社会論 / 質的社会調査法(生活史法)   |
|           | 小田 勇樹   | 行政学 / 公共経営 / 公務員制度  |
| 日本政治      |   |   |
| 教授        | 小川原 正道<br>奥 健太郎   | 日本政治史 / 日本政治思想史<br>近現代日本政治史   |
| 准教授       | 松浦 淳介   | 現代日本政治論 / 立法過程論   |
| 地域研究・比較政治 |   |   |
| 教授        | 高橋 伸夫<br>出岡 直也<br>岡山 裕<br>粕谷 祐子<br>杉木 明子<br>小嶋 華津子<br>大串 敦<br>錦田 愛子 | 中国現代政治史<br>現代ラテン・アメリカ政治論 / ラテン・アメリカ政治史<br>アメリカ政治・政治史<br>途上国比較政治 / フィリピン政治 / 政治制度論<br>現代アフリカ政治 / 国際関係論<br>現代中国政治<br>ロシアおよびその他の旧ソ連諸国の政治<br>現代中東政治 / パレスチナ研究 / 移民・難民研究 |
| 国際政治      |   |   |
| 教授        | 山本 信人<br>細谷 雄一<br>宮岡 勲<br>西野 純也<br>森 聡<br>井上 正也<br>詫摩 佳代            | 東南アジア地域研究<br>外交史 / 国際政治学<br>国際政治理論 / 安全保障研究<br>現代韓国朝鮮政治 / 東アジア国際政治<br>現代国際政治<br>日本外交史<br>グローバル保健ガバナンス / 国際政治学   |

# 共通科目の先生 (外国語・人文科学・自然科学)

## 共通科目

| 英語    |   |   |
|-------|---|---|
| 教授    | 鈴木 透<br>横山 千晶<br>奥田 暁代<br>熊代 敏行<br>篠原 俊吾<br>常山 菜穂子<br>大和田 俊之<br>佐藤 元状<br>ヘンク, ニコラス<br>有光 道生 | アメリカ文化研究 / 現代アメリカ論<br>19世紀イギリス文学および文化<br>アメリカ文学 / アメリカ研究<br>認知言語学 / 日本語学<br>言語学<br>アメリカ演劇文化研究<br>アメリカ文学 / ポピュラー音楽研究<br>イギリス文学 / イギリス映画研究<br>古代ローマ史 / 現代中央アメリカ政治<br>アメリカ文学 / 比較文学 / 人種理論 |
| 准教授   | 近藤 康裕<br>大野 真澄<br>古賀 裕章<br>平沢 慎也  | イギリス文学 / 文化研究<br>応用言語学<br>言語学(認知・機能類型論)<br>言語学(英語学・認知言語学)   |
| 専任講師  | 永鳴 友<br>星野 真志<br>ラーソン, マイケル ウィリアム<br>小泉 由美子   | イギリス文学<br>20世紀以降のイギリス文化と社会<br>アメリカ文学 / 比較文化<br>アメリカ文学 / アメリカ詩   |
| ドイツ語  |   |   |
| 教授    | 許 光俊<br>三瓶 慎一   | 芸術 / 文学<br>ドイツ語学 / 現代ドイツ研究  |
| 専任講師  | 橋 宏亮  | 近代ドイツ文学   |
| フランス語 |   |   |
| 教授    | 大出 敦<br>笠井 裕之   | 19世紀フランス文学 (ステファヌ・マラルメ)<br>20世紀フランス文学   |
| 准教授   | 植橋・アンリ ナタリー<br>岩下 綾<br>綾部 麻美  | 日本文学 (大正期・昭和初期の女性作家)<br>16世紀フランス文学 (フランソワ・ラブレール)<br>20世紀フランス詩   |
| 専任講師  | 村上 由美   | 19世紀フランス詩   |
| 中国語   |   |   |
| 教授    | 安田 淳<br>林 秀光<br>磯部 靖  | 現代中国の安全保障<br>現代中国政治<br>現代中国政治   |
| 准教授   | 島田 美和   | 中国語 / 地域文化論   |
| 朝鮮語   |   |   |
| 教授    | 磯崎 敦仁   | 北朝鮮政治   |
| スペイン語 |   |   |
| 教授    | 大久保 教宏<br>本谷 裕子<br>折井 善果  | ラテンアメリカ史 / キリスト教史 / 宗教学<br>ラテンアメリカ研究(メソアメリカ) / 文化人類学 / 民族服飾学<br>スペイン文学 / 比較思想史  |
| 専任講師  | 浜田 和範   | ラテンアメリカ文学   |
| ロシア語  |   |   |
| 教授    | 熊野谷 葉子  | ロシア民俗学 / ロシア文化  |
| アラビア語 |   |   |
| 専任講師  | 大集 エヴァ  | アラビア語 / 言語学   |
| 歴史    |   |   |
| 教授    | 片山 杜秀   | 近代日本の思想と文化  |
| 物理学   |   |   |
| 教授    | 下村 裕<br>小林 宏充<br>杉本 憲彦  | 力学 / 流体物理学 / 乱流の統計理論<br>プラズマ物理 / 流体力学<br>地球物理学 / 気象学 / 地球流体力学   |
| 助教    | 森本 睦子   | 宇宙工学 / ミッションデザイン / 軌道設計   |
| 生物学   |   |   |
| 准教授   | 小野 裕剛   | 発生生物学 / 分子遺伝学   |
| 専任講師  | 坪川 達也<br>林 良信   | 分子神経生物学 / 発生生物学<br>昆虫社会学 / 進化ゲノム学   |
| 化学    |   |   |
| 准教授   | 志村 正  | 有機金属化学 / 高分子化学 / 電気化学   |
| 専任講師  | 土居 志織   | 酵薬化学 / 応用微生物学   |
| 心理学   |   |   |
| 准教授   | 田谷 修一郎  | 実験心理学(知覚・認知)  |